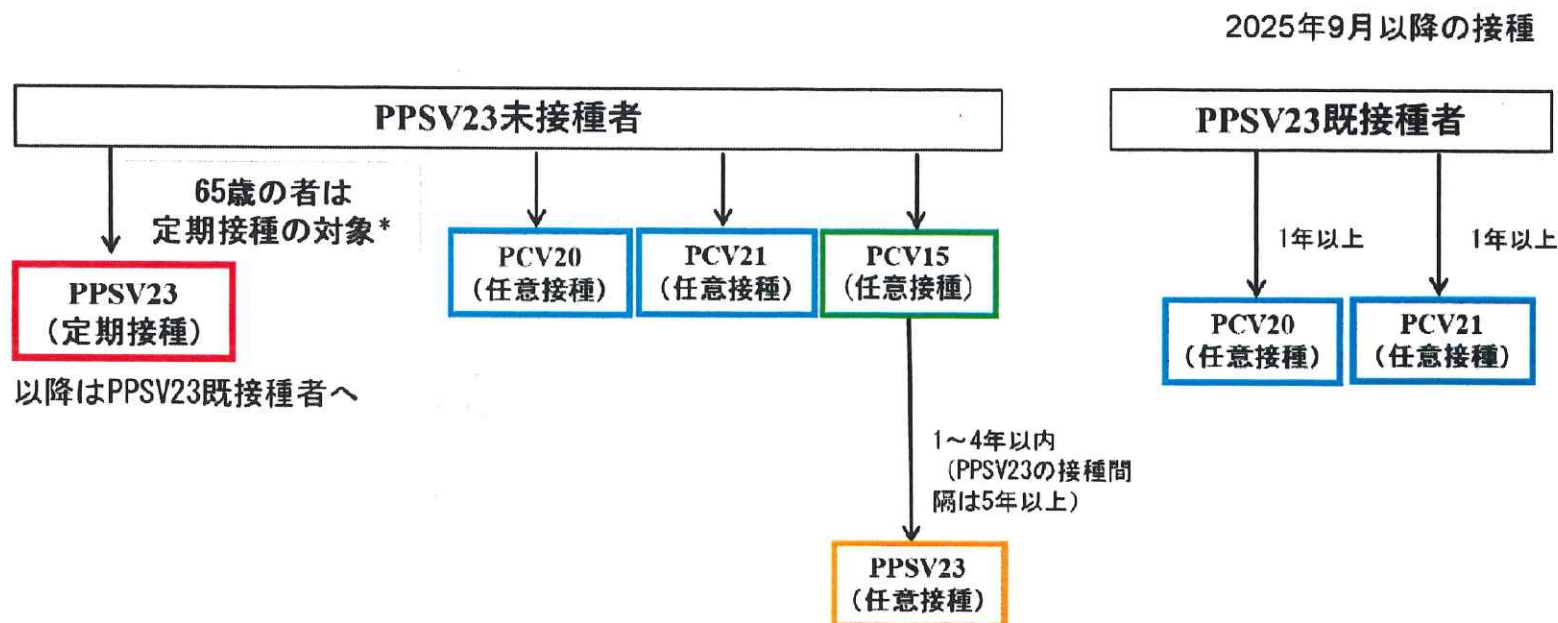


図. 65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種の考え方(2025年9月)  
(日本感染症学会/日本呼吸器学会/日本ワクチン学会 合同委員会)



注意

- #1. 定期接種対象者が、定期接種によるPPSV23の接種を受けられるように接種スケジュールを決定することを推奨する。
- #2. PPSV23未接種者に対しては、上記#1を勘案しつつ、PCV15→PPSV23の順番で連続接種することが考えられる。
- #3. 第7版ではPPSV23の再接種は、原則として選択肢としない。
- #4. PCV13接種後の肺炎予防効果は5年間程度持続すると考えられるが<sup>(3,14)</sup>、現時点で、PCV接種後のPCV20またはPCV21による適切な再接種の時期は決定できていない。ただし、PCV既接種者が、接種後1年以上の間隔でPCV20またはPCV21を接種することは、安全性の観点からは可能である<sup>(8,26)</sup>。

\*60歳以上65歳未満で日常生活が極度に制限される程度の基礎疾患を有する者も定期接種の対象となる。